

[学園ビジョン R2030]

# 挑戦をもっと自由に

いま 世界と社会は 大きく 急激に 変わっています  
先を見据えることが極めて難しい局面を迎えています

このような時代の中で  
未来のあるべき姿を積極的に社会に提起していくとともに  
柔軟に 粘り強く 変化に対応できる力を育み  
多様な人々が集う学園の創造を通じて社会に貢献します

このために 異なる価値観を認め合い  
摩擦を恐れず 高め合い これまでの限界を超えていく

あらゆる人の自由な挑戦が  
希望に満ちた未来につながる社会を目指して  
私たちはこれからも挑戦を続けます

## 立命館大学 学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、主体的に学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

## R2030中長期計画

立命館学園は、建学の精神と教学理念のもと、先進的な教育・研究に取り組んできました。2010年には、「Creating a Future Beyond Borders 自分を超える、未来をつくる。」を2020年に向けた学園ビジョンとして掲げ、より積極的に学園創造を進めてきました。今、私たち立命館学園は、その精神と理念、歴史を受け継ぎ、2030年に目指す新たなビジョンとして、「学園ビジョン R2030」を掲げます。

## 立命館大学 大学案内 2026

### CONTENTS

- 002 立命館憲章・学長メッセージ
- 003 建学の精神・教学理念・国際化のあゆみ

#### 巻頭特集

- 004 「Futurize. ～立命館がわかる8つのポイント～」
- 006 CHALLENGE YOUR MIND.
- 008 CHANGE OUR FUTURE.
- 010 INNOVATION STARTS WITH YOU.
- 012 デザイン・アート学部\*

- 014 学部INDEX

#### 京都 衣笠キャンパス

- 016 法学部
- 022 産業社会学部
- 030 国際関係学部
- 036 文学部

#### 大阪 大阪いばらきキャンパス(OIC)

- 050 経営学部
- 056 政策科学部
- 062 総合心理学部
- 068 グローバル教養学部
- 074 映像学部
- 080 情報理工学部

#### 滋賀 びわこ・くさつキャンパス(BKC)

- 088 経済学部
- 094 スポーツ健康科学部
- 100 食マネジメント学部
- 106 理工学部
- 116 生命科学部
- 124 薬学部

- 130 立命館大学の学びと特長／外国語・グローバル教育
- 136 大学院・研究推進
- 140 進路・就職支援
- 146 課外自主活動
- 148 奨学金制度・学生生活サポート
- 154 キャンパス周辺エリアガイド
- 156 キャンパス・施設紹介
- 164 入試基本情報・入試イベント・関連サイト
- 168 交通アクセス

\*2026年4月開設に向け設置届出予定。内容は予定であり、変更する場合があります。

## 立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類的諸課題の解明に邁進する。その教育

にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人立命館

### 学長メッセージ

世界は、戦争や紛争、気候変動、人口・食料問題、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンなど、人類に共通する様々な課題を抱えています。これらを克服し、持続可能な社会を構築するためには、文系・理系の枠を超えて、それぞれの知識や知恵を組み合わせ、新たな価値や概念を創り上げる必要があります。

立命館大学は16の学部、21の大学院研究科を擁し、海外からの留学生約3,200名を含む約38,000名の学部生・大学院生が集うダイバーシティに富んだ私立総合大学です。国や地域の枠を超え、京都、大阪、滋賀に位置する特色あるキャンパスで学びを深めています。

私たちは、2030年に向けた中期計画で「挑戦をもっと自由に」というビジョンワードを掲げています。イノベーションを生み出す源泉は、失敗を恐れない挑戦にあります。未来の社会はどうあるべきか、その実現のために解決すべき課題は何か。それぞれが考える問題意識にもとづき、これまでの価値観や固定観念にとらわれず、新たな課題にチャレンジする皆さんを、立命館大学は大いに歓迎いたします。

これからは、ますます変化が激しく、予測困難な時代となるでしょう。これは決して悲観すべきことではありません。社会が大きく変わる時代とは、言い換えれば可能性にあふれている時代でもあります。皆さんの前には無限の可能性が広がっているのです。今はまだ気づいていない自分自身の潜在的な力や、思いもなかった分野への興味や関心が見つかるかもしれません。立命館大学の多様な学びと好奇心を刺激する環境を最大限に活かし、あなただけの学びと探究・研究のテーマを見つけてください。自由な挑戦を通じて、未来を切り拓いていく皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。



立命館大学長  
仲谷 善雄



## 「立命館」名称の由来

「立命」というのは中国の古典「孟子」の盡心章（じんしんしょう）の一節にある「夭寿（ようじゅ）貳（たが）わず、身を修めて以て之れを俟（ま）つは、命を立つる所以（ゆえん）なり」から採ったもので、「人間には、若死にする人もあれば、長生きする人もあるが、それはすべて天命で決められていることである。だから生きている間はわが身の修養（勉強）に努めて天命を待つのが人間の本分を全うすることなのである」という考えです。したがって、「立命館」は人間がその本分を全うするための場所を意味しています。

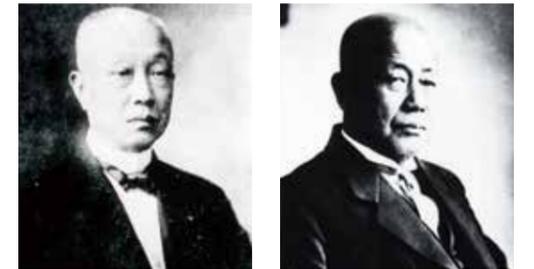
## 建学の精神「自由と清新」／教学理念「平和と民主主義」

学祖である西園寺公望は、「自由主義」と「国際主義」を標榜し、日本が世界の一員として十全な役割を發揮することを生涯の課題としました。その後、西園寺の「自由主義と国際主義」の精神を受け継いだ中川小十郎が、「自由にして清新」な学府、つまり、自由にして進取の気風に富んだ学園の創造を目指しました。この「自由と清新」は、立命館建学の精神として、今日まで受け継がれています。そして戦後、立命館学園は末川博を総長に迎え、第二次世界大戦と十五年戦争に対する深い反省に立って、憲法と教育基本法に基づく「平和と民主主義」を教学理念として掲げました。これら建学の精神と教学理念は、実際の教育や研究に生かされ、様々な取り組みにつながっています。

## 立命館の歴史と国際化のあゆみ

立命館学園は、2020年度に創始150年、創立120周年を迎えた、日本における私立総合学園の中でも歴史と伝統をもつ学園の一つです。

立命館の歴史は、近代日本の代表的な政治家で、国際人であった西園寺公望が1869（明治2）年、新しい時代を担う若者を育てるため、私塾「立命館」を創始したことに始まります。その後、1900（明治33）年、文部大臣時代の西園寺の秘書であった中川小十郎が、その意志を引き継ぎ立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を創立しました。1913（大正2）年には、西園寺の許諾を得て、「私立立命館大学」と改称しました。そして立命館は、「世界に開かれた立命館」を目指し、特に1980年代半ば以降、日本の大学の国際化をリードしてきました。



学祖 西園寺公望

創作者 中川小十郎

### 〈略年表〉

|       |   |       |  |
|-------|---|-------|--|
| 1869年 | 西園寺公望(学祖)が私塾「立命館」を創始                                | 2011年 | 国際関係学部「グローバル・スタディーズ専攻」を設置                          |
| 1900年 | 中川小十郎が「私立京都法政学校」を創立                                 | 2012年 | 文学部が「キャンパスアジア・プログラム」を開始                            |
| 1905年 | 西園寺公望が「立命館」の名称継承を許諾                                 | 2013年 | 政策科学部に「Community and Regional Policy Studies専攻」を設置 |
| 1913年 | 大学を「私立立命館大学」と改称                                     |       | 中国・大連理工大学と共同で「大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部」を開設         |
| 1933年 | 京大事件で辞職の教員18名を受入                                    | 2014年 | 平成26年度「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択                       |
| 1945年 | 末川博が立命館大学学長に就任<br>※戦後、学長に就任した末川博は、さまざまな学園改革を行った     | 2015年 | 大阪いばらきキャンパス(OIC)を開設                                |
| 1948年 | 学校教育法による「立命館大学(新制)」を設置                              | 2017年 | 情報理工学部に情報システムグローバルコースを設置                           |
| 1988年 | 国際関係学部設置、京都国連寄託図書館を設置                               | 2018年 | アメリカン大学と共同で「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」を設置                |
| 1991年 | 立命館・UBCジョイントプログラムを開始                                | 2019年 | グローバル教養学部を開設<br>国際交流拠点「分林記念館」を開設                   |
| 1994年 | びわこ・くさつキャンパス(BKC)を開設<br>アメリカン大学との共同学位プログラム(DUDP)を開始 | 2020年 | 文学部に「国際コミュニケーション学域」<br>「言語コミュニケーション学域」を設置          |
| 2000年 | 「立命館アジア太平洋大学」を創立                                    | 2025年 | 「スーパーグローバル大学創成支援事業」の最終評価でS評価(最高評価)を獲得              |
| 2006年 | 「立命館憲章」制定、朱雀キャンパスを開設                                |       |  |
| 2009年 | 「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(G30)」採択                     |       |  |

世界はグローバル化が進み、これまで経験したことのない地球規模の課題に直面しています。それらの課題に真摯に向きあい、強い意志と使命感を持って解決に挑んでいるたくさんの「立命人」がいます。

全国から、世界から立命館に集い、ともに学び、力をつけた約40万名の卒業生が、世界のあらゆるところで地域の人たちと手を携え、未来の社会を創っています。

# Futurize.

## 立命館がわかる8つのポイント

学部生約34,000名、大学院生約4,100名、教職員約2,500名の

多様な存在が互いに刺激を与え、切磋琢磨し、互いの要素を最大限生かして高め合う。

多様性あふれる学びの環境は、驚きと感動に満ちています。

仲間とともに学び、自分自身と向き合い、

挑戦しながら、時には失敗して、また挑戦する。

立命館大学で過ごす時間の中で、一人ひとりが自分らしく成長し、

世界中のあらゆる場で貢献できる存在になってほしいと願っています。

### CHALLENGE YOUR MIND.

#### 多様性の中で自らの人生を開拓する

立命館大学の最大の魅力は「多様性」です。日本全国・世界各国・地域から多様なバックグラウンドを持つ個性が集まり、刺激しあいながら日々選択と挑戦を続けています。互いの個を尊重しながら融合し、新しい学びや価値を創造できるキャンパスがここにあります。

### CHANGE OUR FUTURE.

#### 新しい価値創出へ向けた次世代研究大学

立命館大学は社会課題の解決に向けて、価値とイノベーションの創出、その担い手の育成に取り組みながら「次世代研究大学」を目指しています。そのために産官学地で連携し、あらゆる分野を融合させ、誰もが知的生産者の一人としてその力を発揮できるような場を提供します。

### INNOVATION STARTS WITH YOU.

#### 新たな学び、挑戦、価値を創出するキャンパス

立命館大学は、社会課題の発見・解決、新しい価値の創出に向け、企業・自治体・教員と学生が共創し、新しい学びや挑戦を創出するキャンパス展開を進めるとともに、主体的に未来を切り拓こうとする学生が、条件・環境によってあきらめることがないよう、きめ細かいサポートに努めています。

# CHALLENGE YOUR MIND.

## 多様性の中で自らの人生を開拓する

### POINT 01

#### 「学び」や「経験」の選択肢が豊富

立命館大学は、社会科学・人文科学・自然科学に跨る17\*の学部、22\*\*の研究科をもつ、総合大学。学びの関心や目的もさまざまな学生が集まっています。学部ごとの学びに加え、たとえば教養科目の授業では多様な学部、学年の学生が交じり合って学びます。また、研究、留学、インターンシップ、資格取得、約400のクラブ・サークルなど正課外の活動も多様です。だからこそ、互いに尊重しあい多様な価値観や感性を受け入れるなかで、それぞれの学びが広がり、一人ひとりの成長を実現していくことができます。

\*デザイン・アート学部、デザイン・アート学研究科2026年4月開設に向け設置届出予定。内容は予定であり、変更する場合があります。

学部・研究科数

学部

17

研究科

22

### POINT 02

#### 多文化共生キャンパス — 全国・世界中から立命館へ —

立命館大学には、全国・世界中から様々なボーダーを越えて仲間と共に学んでおり、大学生生活のあらゆる場面で正課・課外問わず交流しています。国内学生は約半数が近畿圏外から、また国際学生は78カ国・地域の出身者がキャンパスに集い、文化や価値観の違いなどを互いに認め合いながら、新たな価値を創造しています。

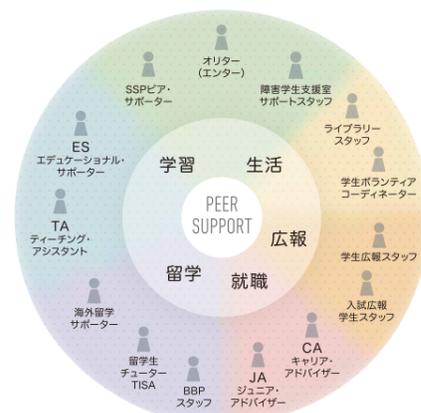


### POINT 03

#### 学生同士の学びあい(ピア・サポート)

立命館大学では、学生のコミュニティがあらゆるところにあります。そこには活動を支援する「学生サポーター」(具体例は右記図参照)が存在し、学生同士の学びあい(ピア・サポート)が個や組織の成長につながっています。「オリター(エンター)」制度は本学ピア・サポートの起源とも言えるもので、2年生以上の先輩が初年次小集団クラスにおいて、新生を学習面・学生生活面から支えています。多くの学生が大学の支援も活用しながら、日常的に助け合うことを通じて主体性を体得する経験を積んでいきます。サポーターの助けを借りて学びをよりスムーズに進められた学生が、その後支援する側に立つことで、大学全体で学びあいの輪が広がっています。

BBP → P.132 SSP → P.152





POINT 04

次世代研究大学へ

「新たな価値を創造する次世代研究大学」と「イノベーション・創発性人材を生み出す大学」を本学の将来あるべき姿として学園ビジョンに掲げ、産業界や自治体、市民といった多様なアクターとの共創のもと、総合大学の強みを活かした研究プロジェクトに取り組んでいます。文部科学省から助成される競争的研究資金のひとつ科学研究費助成事業において、西日本私立大学1位（全国私立大学4位）の配分額となったことも、本学が多様で特色ある研究活動を展開していることを表しています。

また、2024年度には文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。J-PEAKSは、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営のもと、他大学との連携や研究活動の国際展開、社会実装の加速などにより大学全体の研究力強化を推進する事業です。そのほか、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が公募する令和6年度「宇宙戦略基金事業」における「技術開発テーマ・SX研究開発拠点」に東京大学、名古屋大学、国立天文台とともに私立大学からは唯一採択されました（本学課題名：月面探査・利用を産業化するための宇宙機器開発・人材育成拠点）。

科研費（科学研究費助成事業）

16億 316万円  
過去最高  
西日本私立大学1位（全国私立大学4位）



立命館大学研究活動報  
『RADIANT』



<https://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/>

POINT 05

「世界のトップ2%の科学者」に本学から36名がランクイン

米国スタンフォード大学とエルゼビア社による「世界のトップ2%の科学者」を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース」が更新され、立命館大学から36名の科学者が選出されました。このリストはScopus（文献データベース）の情報に基づき、22の研究分野と174のサブ分野で少なくとも5編以上の論文を発表している世界約500万人の科学者を対象として分析し、総被引用回数（自己引用を除く）、h-index、単著論文数、個別引用論文数などの複合的指標により評価されました。立命館大学は、さらなるイノベーションの創出、また地球規模で生起する社会問題への対処、教育への還元などを積極的に行ってまいります。

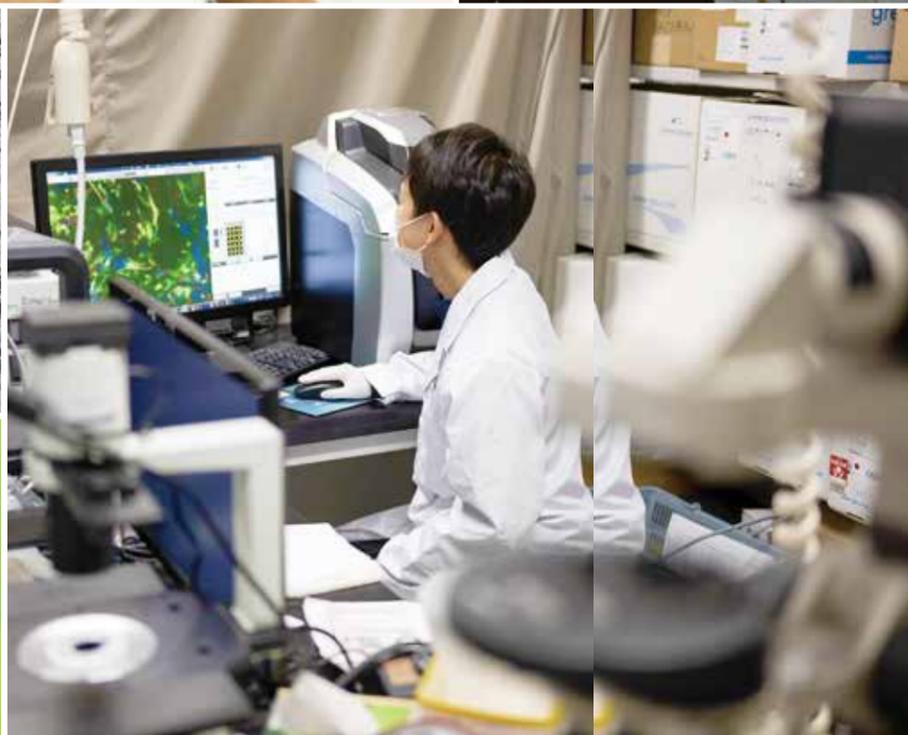
世界2%の科学者  
36名の教員が選出

研究推進 → P.138

POINT 06

立命館大学の起業エコシステム：経済産業省調査で全国10位にランクイン

経済産業省が発表した大学発スタートアップ調査で、立命館大学は2023年度の大学発ベンチャー数が135社となり、総合順位で全国10位となりました。立命館大学は、2021年6月からオープン・イノベーションを通じた起業・事業化をワンストップで推進する専門組織「起業・事業化推進室」を立ち上げ、グラスルーツ・イノベーションを方針として、研究シーズの事業化や小学校から大学院までの一貫教育型アントレプレナーシッププログラムを進めてきました。2020年に社会課題解決型のスタートアップに投資するファンド「立命館ソーシャルインパクトファンド」を立ち上げ、インパクト投資型の手法を用い、地域社会課題などを解決する事業を支援。2023年度にファンドの運用額を20億円に拡大し、社会課題解決を目指す立命館卒業生らに出資しています。今後も、学生や教員、卒業生が持つアイデアや研究成果の事業化を支援していきます。



# CHANGE OUR FUTURE.

新しい価値創出へ向けた次世代研究大学

# INNOVATION STARTS WITH YOU.

新たな学び、挑戦、価値を創出するキャンパス



## POINT 07

### 多様なニーズに応え挑戦を応援する支援制度や環境整備

立命館大学は、これまでも学生の様々な挑戦をサポートする制度や環境を整え、学生の成長のための自由な挑戦を支援してきました。留学制度では、短期から中長期までさまざまなプログラムを用意し、世界レベルの大学の研究・教育に触れる機会を提供しています。また奨学金や助成制度も充実させ、学修・留学・課外自主活動など、経済的理由で未来の可能性をあきらめることのないよう、支援する制度を設けています。キャリア支援では、学生一人ひとりの希望進路にあった多様なキャリア支援プログラムや企画を提供しているほか、難関試験や資格取得のための対策講座なども充実させています。また、これらの学びや活動をスムーズに行えるよう、Wi-Fi や電源コンセントの増設、オンラインミーティングや面接などに対応した個室ブースの設置など、情報環境の整備にも努めています。今後も常に時代やニーズに応じた制度・環境を整え、学生が高い志をもって社会に飛び立てるよう支援していきます。



進路・就職支援 → P.140~  
 奨学金制度 → P.148~  
 情報環境 → P.152

留学可能な大学・機関

世界 **36** 国・地域  
**161** 大学・機関 ※2024年5月1日時点

国家公務員総合職試験(春試験)の最終合格者数

全国 **3** 位  
 (全国私大1位) ※2024年度実績

1位 東京大学  
 2位 京都大学  
 3位 立命館大学

## POINT 08

### 社会共創の実現に向けたキャンパス新展開

立命館大学は、「社会共創」を通じた次世代研究大学の実現に向け、政府・自治体、産業界や地域社会、世界の大学や研究機関とも連携した社会課題の発見・解決、新しい価値の創出に向けた教育・研究を目指しています。この構想を実現するための具体的な取り組みのひとつとして、新しい学びとコミュニティの創造の拠点となる新棟(H棟)を2024年4月、大阪いばらきキャンパスに設置しました。このH棟を中心に多様な人々がつながり合うことで新たな挑戦を創出していく学びの場をTRY FIELDと名付け、実社会と連携した多様なプログラムを実施しています。また、2024年10月には、企業・学生・教員による会員コミュニティ「RINC (Ritsumeikan Innovation Network for Co-creation)」を大阪いばらきキャンパスにてスタートしました。この取り組みでは、RINC に加盟する企業と学生・教員の連携を促し、共創を目指すコミュニティをキャンパス内に創り出すことで創発性人材の育成を目指します。企業は、大学ならではの教育研究リソースを活用し、学生とともに、社会における実課題の解決に取り組めます。

2024年9月には、JR大阪駅北側の再開発地域「うめきた2期(グラングリーン大阪)」の中核機能施設「JAM BASE」にオープンイノベーション拠点「ROOT (Ritsumeikan Osaka-umekita Open innovation Terrace)」を開設しました。ROOTは、立命館学園(立命館大学、立命館アジア太平洋大学、各附属校)がもつ多様なリソースと企業・自治体とをつなぐ、新たなオープンイノベーション拠点です。国内屈指のイノベーション空間「うめきた」で、未来志向の多様なプレイヤー・団体との共創、さらにあらゆる世代の人がそれぞれの知的好奇心を深め、新領域の学びやリカレントに挑戦できるきっかけとなる、多様なプログラムを展開していきます。

びわこ・くさつキャンパス(BKC)では新施設「立命館先端クロスバースイノベーションcommons (CVIC)」や「グラスルーツイノベーションセンター (GIC)」の2025年7月運用開始を予定しています。新たに建設するCVICは、「身体圏」という新たな研究領域を創出し、スポーツ健康科学、脳神経科学、情報科学、心理学、人間科学などの多様な研究分野からアプローチする学際共創ハブの拠点となる



立命館先端クロスバースイノベーションcommons (CVIC)/グラスルーツイノベーションセンター (GIC) のイメージ



ROOT (Ritsumeikan Osaka-umekita Open innovation Terrace)

施設です。GICは、企業や自治体などさまざまなステークホルダーと連携し、BKCを中心に研究成果を生かした起業・事業化を推進します。また、自由なものづくりを可能にするFabラボなどを備え、科学・芸術・数学など分野を横断した探究型のSTEAM教育を交えながら、新たな社会を拓くイノベーション人材、創発性人材を育成します。

衣笠キャンパスでは、「デザイン・アート学部」の2026年4月設置を目指し、準備を進めています。

▶「デザイン・アート学部」の詳細は次ページへ

# College of Arts & Design

## デザイン・アート学部 デザイン・アート学科

2026年4月開設に向け設置届出予定

※内容は予定であり、変更する場合があります。

- 学士(デザイン・アート)
- 入学定員180名
- 衣笠キャンパス

## その感性を、世界に解き放つ。

デザイン・アート学部は、「デザイン学」を一つのディシプリンとして捉え、歴史都市京都にある総合大学が展開する未来志向の新たなデザイン学を追求しつつ、アートの感性と技術を基盤に自然科学と人文・社会科学を横断した教育・研究を展開することを目的として設置します。フィジカルとデジタルが融合した未来の生活世界を感性豊かに創造できる人材の育成を行います。

学部HP



### 学びと成長の基盤となるカリキュラム構造

カリキュラムには、アクティブラーニングの構成要素である「主体的な・対話的な・深い学び」がその構造に埋め込まれており、カリキュラムレベルでのアクティブラーニングを実現します。「Design in Society」科目群でプロジェクトを中心とした「対話的な学び」を経験し、「Design Studies」科目群でプロジェクトの「振り返り」を行うことにより、深い学びが実践されます。次なるプロジェクトへ取り組むうえでそれぞれの学生が必要とする知識・技能を「Design Language」科目群で修得していきます。

#### 能動的学修[主体的な学び]

「生成するプロセス」を円滑に実践していくための他者との協働におけるコミュニケーションとなる言語(=知識・技能)を、学修者自身のビジョンに基づき修得する

Design Language (DL) 科目群

#### 経験[対話的な学び]

「生成するプロセスへの参画」を通じてデザイン・アートの実践知を修得する

Design in Society (DiS) 科目群

#### 振り返り[深い学び]

「生成するプロセス」での経験を意味づけ、「モノゴトの概念化」を行う

Design Studies (DS) 科目群

往還

一般的な「センス」という概念にとらわれない  
個々人のもつ個性・感性の融合により生み出す社会  
形にしていく力

### デザイン・アートの学びを構成する4つの領野

#### 意味デザイン

人間による感性や知性に基づいた営みから生み出される有形無形の資源を蓄積し、それらに対して新たな「意味」や「表現」を与え、人間社会に還元していくプロセスです。そこでは、デザインされた文化的資源がさらに人間による文化的な営みのなかでかたちを変え、それらが新たにデザインの対象となっていくサイクルが含まれます。この分野では、文化情報学、芸術学、文化財科学、博物館学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチします。

#### 環境デザイン

人間は自己を取り巻く環境を創り出す主体であると同時に、その認知や行動は環境からの大きな影響を受けます。人間とそれを取り巻くモノやそれによって構成される空間の関係は相互的なダイナミズムがあります。デザイン・アート学部が研究対象とする環境デザインは、例えば、一つの部屋から都市や地域に至るまで、さまざまなスケールの「環境」に対して、このダイナミズムを可視化し、そこに創造的な介入をおこなっていくプロセスです。この分野では、建築・都市工学、地理学、地域社会学、生活科学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチします。

#### 情報デザイン

人類史における様々な技術の発展は、情報の可視化、蓄積、伝達のかたちを変え、そのことを通じて情報自体が持つ意味の質や方向づけをも変えてきました。デザイン・アート学部が研究対象とする情報デザインは、感覚や認知の次元も含めてコミュニケーションを成り立たせている条件の総体に対して、新たな「かたち」や「機能」を与えることで、価値創造を目指すものです。この分野では、情報工学、電気・電子工学、感性工学、認知科学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチします。

#### 社会デザイン

社会に流通・布置されているデザインされた人工物(製品・サービスや組織、制度を含む)の根底にある意味を対象に、それらに介在する全てのものの関係性を見直し、そこから得られる経験を再定義することで新たな価値創出を目指すプロセスです。その実践は、人工物が生み出された理念をはじめ、生成過程や、人的物的リソース、それらの営みの主体となる組織やコミュニケーション自体のデザインが含まれますが、そうした人工物が消費される生活や社会のあり方について、空間軸・時間軸をまたいだ洞察が必要となります。この分野では、経営学、社会学、文化人類学、史学などの知識を基盤とした方法論からデザイン学にアプローチします。

### 学びの特徴

#### 01 挑戦を後押しするプロジェクト実践による学び ~クリエイティブを実践から学ぶ~

デザイン・アート学部での学びは、プロジェクトの実践を抜きにしては成り立ちません。みなさんの問題意識を掘り下げて、独自の課題を設定し、プロジェクトのカタチで探究してみましょう。学内リソースを用いるだけでなく、外部企業や自治体とコラボレーションする機会も豊富に用意しています。産学連携のプロジェクトや地域内での取り組みを通じて、個々の学生が社会実践のプロセスに参加していくことが期待されます。

#### 02 総合大学ならではの多分野との研究、融合

デザイン・アート学部は立命館大学で17番目の学部となります。多くの自然科学系の学部、人文・社会科学系の学部との学びや研究の融合が期待されます。これまで名前のない方法論や専門性を身につけて第一人者になるというそんな未来もありえます。例えば、デジタル化した生活環境のなかでの新たな道具をデザインするためのフィールドリサーチが必要になったとしたら、どうでしょう? 情報技術系の学問と文化人類学とデザイン学と美学がかけ合わさることで、「デジタル文化人類デザイン美学」のような領域が構想できるかもしれません。

#### 03 京都のまち全体がラーニングプレイス ~京都で、世界で学ぶ~

あなた自身のプロジェクトを、京都のまちにぶつけていきましょう。ふせんにアイデアを書き出すだけでも、スライドショーで発表するだけでもありません。現実の都市を舞台にして、あなた独自のプロジェクトを実施できます。現場で培った経験がもととなり、学びがさらに深まるでしょう。また、デザイン・アート学部の専門施設には、クリエイティブな制作や実務を行うための最新の設備や機材を取り揃えています。スタジオやラボを活用することで、プロジェクトを携えてまちに飛び出すための準備を行い、振り返りのプロセスを経てさらなるブラッシュアップを可能にします。

### 想定される活動やキャリアモデル

デザイン・アート学部卒業後は、次のような活動やキャリアモデルが想定されています。

- 美的感性に基づいた企業組織の戦略とデザイン戦略の統合を担う。
- テクノロジーを熟知し、組織ビジョンの構想から実現までをトータルで設計・実行する。
- 社会的、経済的コンテキストを踏まえ、新たなビジネスやサービスの開発を通じて、社会的課題に対して解決策を提示する。
- 地域社会の生活や産業と結びついて新たなデザイン・アートの課題を提起するような政策的な活動を担う。
- デザイン・アートの視座から、現在、未来を透視し、あるべき生活世界の新たな理念形成を推進していく。
- 創造的で共感できるビジョンを探索し、それを他者と共有し、巻き込んでいくプロジェクト実践を行う。

ビジョンデザイナー

新しいビジョンを提示、これからのあるべき生活世界の形成に向けた社会課題や市場を構想する

カルチュラルデザイナー

社会や組織に新たな文化を創り、ライフスタイルとして提案する取り組みを実践する

デザインストラテジスト

ビジネスとデザイン・アートの融合により可能となる事業戦略の立案

ビジネスデザイナー

組織の理念を可視化し、事業価値と顧客価値の両立、サービス、ビジネスをリードする

など